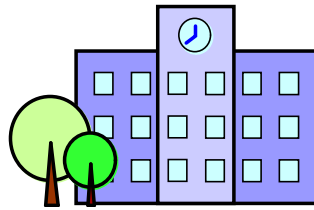


まど



江別市立東野幌小学校 学校だより No. 9

平成 30 年 11 月 16 日

【学校教育目標】

☆よく考え進んで学ぶ子

☆心豊かで思いやりのある子

☆健康でたくましい子

全国学力・学習状況調査の結果について

4月17日に6年生を対象に行われた全国学力・学習状況調査が実施され、先日、新聞等で調査結果が公表されました。今年度は国語A（主として「知識」に関する問題）、国語B（主として「活用」に関する問題）、算数A（主として「知識」に関する問題）、算数B（主として「活用」に関する問題）の他、3年に1度の理科も実施されました。

また、学力調査とは別に、学習や生活の様子を質問した「児童生徒質問紙」による調査がありました。今年度の本校の調査結果についてお知らせ致します。

児童生徒質問紙調査の結果

1. 学習に関する事項

①「家で、自分で計画を立てて勉強している」の項目で

「自分で計画して勉強している」の割合が全国平均を上回っていました。

②「1日1時間以上勉強している」の項目で

「1時間以上勉強している」の割合が全国平均を上回っていました。

→年度当初よりの学校全体での家庭学習への取組や、学級での課題の出し方に加えて、ご家庭での声かけが有効だったとご協力に感謝しております。

また、本校では、日頃の授業改善の取組に加えて、算数科においてTTや習熟度別授業を実施しています。今回の算数科の学力調査では、後に記述がありますが、全国平均を上回っていました。今後も学校とご家庭で連携しながら、子ども達の学びを見守っていききたいと思います。どうぞ、よろしくお願い致します。

2. 自己を捉える質問事項

①「自分にはよいところがあると思っている」の項目で

全国平均をやや上回っていました。

→各学級や委員会活動での取組、また運動会や学習発表会において、仲間と協力して成功させた充実感を持てたのではないかと分析しています。ご家庭においても、短期、長期でのお子さんの目標を聞いてあげたり、経過を聞いてあげることで、自分の中で取組を確認出来たり、改めて課題に向かうことが可能になります。継続して、ご家庭と連携して子ども達の自己有用感を高める取組を実施していきます。

②「地域や社会をよくするために何をすべきか考える」の項目では

全国平均を下まわっていました。

→コミュニティ・スクールで地域との連携を強める中から、ふるさと教育等を地域と共に更に充実させ、子ども達が地域との関わりについて考えさせる教育課程を進めて参ります。

国語

「国語A：主として知識」について、「読むこと」、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」においては全国平均をやや上回っています。一方、「話すこと・聞くこと」においては全国平均と同様で、「書くこと」においては、全国平均をやや下回る結果となりました。

「国語B：主として活用」について、「読むこと」においては全国平均をやや上回っています。「話すこと・聞くこと」、「書くこと」においては全国平均を下回る結果となりました。

【国語Aでの6学年児童の正答率が高かった問題】

ア 目的に応じて必要な情報を捉えて読むこと

1 「材料」の分量を正確に読む。
2 文章全体の内容を読みとる見出しを読む。
3 「作り方」の中から必要な内容を読みとる見出しを読む。
4 絵と文章を結びつけて読む。
5 「ポイント」に書かれた内容を読みとる見出しを読む。

山本さん……
川上さん……

【オムレツのページ】

オムレツ
(調理時間約10分)

材料(一人分)
卵……………2個
バター……………5グラム
塩……………少々
こしょう……………少々

作り方
1 ボウルに卵を割り入れ、溶きほぐし、塩、こしょうで味をつける。
2 直径18cmほどの小さめのフライパンを強火にかけ、温まったら弱火にしてバターを入れる。バターが溶ける前に卵を一気に流し入れる。
3 フライパンを前後に動かしながら、さいばしで円をえがくように手早く混ぜる。このとき、火が入り過ぎないように、ときどきフライパンを火からおろす。
4 表面が半熟状になったら、フライパンの手前側の卵を向こう側へ折り返す。
5 向こう側の卵を手前側へ折り返す。
6 卵のどじろ目が下になるようにお皿に移したらでき上がり。

ポイント
○ 卵をよく溶きほぐすためには溶き器を使うのがコツ。黄身と白身がよく混ざり、でき上がったときにおろがなくなります。
○ フライパンに卵を入れるときにチーズを入れると、チーズオムレツを作ることができます。

【国語Aでの6学年児童の正答率が低かった問題】

イ 自分の想像したことを物語に表現するために、文章全体の構成の効果を考えて書くこと

1 現在と過去を行き来して書き、読者に出来事の流れが分るようにしている。
2 出来事に変化を加えながらくり返して書き、読者が展開に興味をもつようにしている。
3 物語の結末の場面から書き、読者が展開に興味をもつようにしている。
4 時間の流れとは反対の順序で書き、読者に出来事の流れが分るようにしている。

【物語の構成】

終わり	中	はじめ
ケンとアンは、村に伝わる宝物を見つける。しかし、二人にとっては「宝物」が「一筆の宝物」であった。	① 一日かけて、草原で第一の宝物を見つける。宝物の中には、まだカギと紙が入っている。 ② 二日かけて、山で第二の宝物を見つける。宝物の中には、まだカギと紙が入っている。 ③ 三日かけて、川で第三の宝物を見つける。宝物の中には、まだカギと紙が入っている。 ④ 四日かけて、洞で第四の宝物を見つける。宝物の中には、まだカギと紙が入っている。 ⑤ 今までの宝物をすべて合わせると、宝物の場所を示す地図になることがわかった。	ケンとアンは、村に伝わる宝物の話を聞いて、好奇心から探し、宝物に出かける。

【国語Aの分析】

- 国語Aの平均正答率は全国・北海道の正答率をやや上回っています。
- 「話すこと・聞くこと」領域の正答率は90.9%、「読むこと」領域の正答率は76.4%、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」領域の正答率は68.6%と、いずれも全国・北海道の正答率をやや上回っています。
- 「書くこと」領域の正答率は72.7%と、全国・北海道の正答率をやや下回っています。具体的には、「物語を書くときの構成の工夫の説明として適切なものを選択する」問題の正答率がやや低い状況です。
- 「学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく書く(せつ極的)」問題の正答率がやや低い状況です。
- 全体を通して、無回答率が低い状況です。

【国語Aにかかわる今後の取組】

○文や文章を書く際には、主語と述語との関係に注意するなど、正しく書くことの大切さに気付くことができるようにすることが重要です。そのため、書いた文章を推敲する学習を繰り返し、書き直したものが読みやすくなり、相手に伝わったということを児童が実感できるような指導を行っていきます。

○漢字を正しく書く学習では、漢字のもつ意味を考えながら文や文章の中で正しく使うことができるように指導していきます。書く活動と関連付けるなどして、短文で繰り返し読んだり書いたりする機会を増やしていきます。

ア 目的に応じて、複数の本や文章などを選んで読むこと

3 山下さんは、日本人初で「一ペル」賞を受賞した海外文学者として賞された作家 湯川秀樹（一九〇七年～一九八一年）

湯川秀樹（一九〇七年～一九八一年）
 湯川秀樹は、全体的にも非常にやさしいが、たまに鋭い。そのつづき、問題を解いて新しい道を歩き出した。その後、日本へ来て初めて「一ペル」賞を受賞し、戦後の日本に希望をみられた。

「心に残った行動や成しとげたこと」

おさじいこの湯川博士は、一人で黙々と積み木に熱中していた。長い時間、積み木を置いたり組み合わせたりして、実や門を作っていた。

A 小學校に入る前か、高校のはじめのころ、書道を習った。最初は筆跡は稚拙だったが、つづいて、父兄ははじめて、師匠にやがてしめた。だが、湯川博士は習い続け、師匠の書方を身につけた。

数学によって考ええることの喜びを教わられた。むかし、問題に出ると「どうや、夢中になて解いた。夕食を知られる母の所へ入らずに解いていた。

大学卒業した後、引継ぎ、東京に定住した。だが、かながら文藝家としての活動はつづけた。夏はじいじが帰っていた。夏はじいじが帰っていた。

B 家族から外国への留学をすすめられ、湯川博士は、自分の仕事をつづけた上で、外国へ出かけた。自分なりの考えで、やれるところでやっていた。何度も失敗してもよいと考えた。

C 最も心に残った一文とその理由

山下さんは「フートの二篇」について、よくよく知っていたことがあって、湯川博士が自分のことを書いた本である「自伝 旅人の二篇」をさらに読みました。山下さんはこのように紹介した。次で、文章を添えました。その説明として、書き手も、その1から4までの中から一つ選んで、その理由を書きましよう。

「自伝 旅人の二篇」

（湯川秀樹「旅人」ある世界文学者の追憶による）

思ったこと

旅人の旅中の仕事について、わたしもバブルに集中することがあるけれど、そんなに長はなさない。

続けることは大変だけれど大切だ。わたしは本をまわっている。やめたいと何度も思っていたが、続けることで、書く決意をするようになった。

わたしは必ずや、この問題を解く。あきらめず、夢中になれるのだらう。

湯川博士も、同じように思うときがあった。このころにおもった。

一度始めたことはなかなかやめないという湯川博士のことをよく知っている。



イ 目的や意図に応じ、内容の中心を明確にして、詳しく書くこと

[illegible]

○目的や課題に応じて図表やグラフなどの資料を意図的・計画的に活用し、それらの読み方について指導す

算 数

「算数A：主として知識」について、すべての領域において全国平均を上回っています。特に「量と測定」領域においては、平均正答率が76.8%と全国平均を4.1%上回る結果となりました。

「国語B：主として活用」についても、すべての領域において全国平均を上回っています。特に「図形」領域においては、平均正答率が66.4%と全国平均を6.5%上回る結果となりました。

【算数Aでの6学年児童の正答率が高かった問題】

ア 単位量当たりの大きさを求める除法の式と商の意味を理解していること（[4]（2）の問題）

イ 折れ線グラフから変化の特徴を読み取ること（[9]の問題）

4

こみぐあいについて、次の問題に答えましょう。

(2) ㉔と㉕の2つのシートがあります。㉔と㉕のシートの面積は、ちがいます。

㉔
8 m²

㉕
5 m²

次の表は、シートの上に乗っている人数とシートの面積を表しています。

すわっている人数とシートの面積	人数（人）	面積（m ² ）
㉔	16	8
㉕	9	5

どちらのシートのはうがこんでいるかを調べるために、下の計算をしました。

㉔ $16 \div 8 = 2$
 ㉕ $9 \div 5 = 1.8$

上の計算からどのようなことがわかりますか。
 下の 1 から 4 までの中から 1 つ選んで、その番号を書きましょう。

- 1 1 m²あたりの人数は2人と1.8人なので、㉔のはうがこんでいる。
- 2 1 m²あたりの人数は2人と1.8人なので、㉕のはうがこんでいる。
- 3 1人あたりの面積は2 m²と1.8 m²なので、㉔のはうがこんでいる。
- 4 1人あたりの面積は2 m²と1.8 m²なので、㉕のはうがこんでいる。

9

A、B、C、D、Eの地点について、同じ日の午前9時から午後5時までの1時間ごとの気温をそれぞれ調べました。

A地点の気温と、もう一方の地点の気温を比べるために、A地点とB地点、A地点とC地点、A地点とD地点、A地点とE地点の気温を、右のように4つのグラフに表しました。

右の4つのグラフの中で、下の2つのことが両方あてはまるグラフがあります。

- ・ A地点ともう一方の地点は、どちらも午前9時から午後2時まで気温が上がり続けていて、午後2時から午後5時まで気温が下がっている。
- ・ 午前9時から午後5時までの間で、もう一方の地点の気温よりも、A地点の気温の方が高い時刻と低い時刻がある。

上の2つのことが両方あてはまるグラフを、右の 1 から 4 までの中から 1 つ選んで、その番号を書きましょう。

1 A地点とB地点の気温調べ

2 A地点とC地点の気温調べ

3 A地点とD地点の気温調べ

4 A地点とE地点の気温調べ

【算数Aでの6学年児童の正答率が低かった問題】

ウ 180°や360°を基に分度器を用いて、180°よりも大きい角の大きさを求めること

5

図1のように、円の中心である点アと円周上の点イを直線で結び、点アと円周上の点ウを直線で結び、これらの辺がつくる角を、角㉔としました。

図2のように、辺アウを矢印の向きに動かして角㉔の角度を大きくしていきます。

図3のように、辺アイと辺アウが一直線になったときの角を、角㉕とします。また、図4のときの角を、角㉖とします。

(2) 左ページの図4のときの角㉖の角度を、分度器を使ってはかります。角㉖の角度は何度ですか。答えを書きましょう。

【算数Aの分析】

- 算数Aの平均正答率は全国・北海道の正答率を上回っています。
- 「数と計算」領域の正答率は65.5%、「量と測定」領域の正答率は76.8%、「図形」領域の正答率は60.6%、「数量関係」領域の正答率は64.7%と、いずれの領域においても全国平均を上回っています。
- 設問別に見ると、1（3）「1に当たる大きさを求める問題では、除数が小数である場合も除数を用いることを理解している」問題、3「十進位取り記数法であらわされた数の大小について理解している問題」、5「180°や360°を基に分度器を用いて、180°よりも大きい角の大きさを求める」問題において、全国と比べてそれぞれ1.7%、1.0%、4.0%上回っている状況です。

【算数Aにかかわる今後の取組】

- 計算の指導に当たっては、計算の意味について理解すること、計算の仕方を考えること、また計算に習熟し活用できるようにすることが大切です。今後も、数直線や図などを用いたり、具体的な場面に当てはめたりして数量の関係を捉えるようにして、乗数と積の大きさ、除数と商の大きさの関係を調べる活動を取り入れていきます。
- 「量と測定」領域では、問題解決に必要な情報を選択したり、見いだしたりする力をさらにつけるために、情報過多の場面を提示し、面積を求めるために必要な情報を取り出す活動などを意図的に行っていきます。
- 「図形」領域では、直感的に図形を見いだしたり、図形の定義や性質を根拠に筋道を立てて考えて図形を見いだしたりするなど、目的に応じて図形を見いだす活動を取り入れます。

ア 合同な正三角形で敷き詰められた模様の中に、条件に合う図形を見いだすことができること

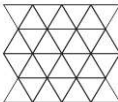
ア 合同な正三角形で敷き詰められた模様の中に、条件に合う図形を見いだすことができること

1

身のまわりには、図形の辺どうしがぴったりあっていて、すきまも重なりもなくしきつめられている模様があります。はるとさんたちは、これらの模様に興味をもちました。

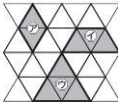
はるとさんたちは、まず、**うろこ模様**を調べることになりました。

はるとさんたちが調べているうろこ模様は、合同な正三角形でしきつめられています。



うろこ模様

はるとさんたちは、**うろこ模様**の中に、いくつかの正三角形でできている図形を見つけました。



はるとさんたちは、**うろこ模様**2つでできている、**ひし形**①を見つけました。

はるとさんたちは、**うろこ模様**3つでできている、**台形**②を見つけました。

はるとさんたちは、**うろこ模様**4つでできている、**正三角形**③を見つけました。

ほかにも、**うろこ模様**4つでできている図形を見つけることはできないかな。



はると



ともや



かずみ

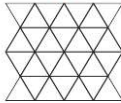
(1) 正三角形4つでできている図形を、**うろこ模様**の中から找つけます。

どのような図形を見つけることができますか。

見つけることができる図形を、下の **1** から **4** までの中から1つ選んで、その番号を書きましよう。

- 1** 長方形
- 2** 直角三角形
- 3** 平行四辺形
- 4** 正六角形

※ 必要ならば、下のうろこ模様を使って考えてもかまいません。



うろこ模様

イ メモの情報とグラフを関連付け、総数や変化に着目していることを解釈し、それを記述できること

イ メモの情報とグラフを関連付け、総数や変化に着目していることを解釈し、それを記述できること

3

2つのめあてについて

「取り組んだ」と「考えた」人数

めあて	7月	12月
めあて1 (取り組んだ)	約520人	約550人
めあて2 (考えた)	約570人	約550人

しおりさんたちの学校は、「進んであいさつをする」と「本をよく読む」の2つのめあてに取り組んでいます。

しおりさんたちは、7月と12月に、2つのめあてについて全校児童625人に対してアンケート調査をし、その結果を下のグラフに表しました。

しおりさんは、グラフからわかることを2つのメモに書きました。

メモ1

- ・「進んであいさつをする」約570人
- ・「本をよく読む」約550人

メモ2

- ・「進んであいさつをする」約50人
- ・「本をよく読む」約700人

えりかさんとまさるさんは、しおりさんが書いたメモについて話し合っています。

えりか

メモ1を見ると「進んであいさつをする」のほうが人数が多いです。でも、メモ2を見ると「本をよく読む」のほうが人数が多いですね。

まさる

メモ1では、「進んであいさつをする」のほうが人数が多く、メモ2では、「本をよく読む」のほうが人数が多いのは、なぜですか。

しおり

メモ1とメモ2は、それぞれ、グラフについてちがうことに着目して書いているからです。

しおりさんが言うように、メモ1とメモ2は、それぞれ、グラフについてちがうことに着目して書かれています。

(1) メモ1とメモ2は、それぞれ、グラフについてどのようなことに着目して書かれていますか。それぞれ着目していることを、言葉や数を使って書きましょう。

- 算数Bの平均正答率は全国の正答率を上回っています。
- 「数と計算」領域の正答率は63.3%、「量と測定」領域の正答率は56.8%、「図形」領域の正答率は66.4%、「数量関係」領域の正答率は49.8%と、いずれの領域においても全国平均を上回っています。
- 設問別に見ると、1(1)「合同な正三角形で敷き詰められた模様の中に、条件に合う図形を見いだす」問題、2(1)「示された情報を解釈し、条件に合う時間を求める」問題において、全国と比べてそれぞれ10.0%、9.5%上回っている状況です。
- 設問3(1)「メモの情報とグラフを関連付け、総数や変化に着目していることを解釈し、それを記述する」問題では、全国の正答率を1.1ポイント上回っているが、正答率が21.8%と低い状況です。また、無回答率は25.5%と、全国平均よりも7.5%上回っている状況です。

- 算数Bの平均正答率は全国の正答率を上回っています。
- 「数と計算」領域の正答率は63.3%、「量と測定」領域の正答率は56.8%、「図形」領域の正答率は66.4%、「数量関係」領域の正答率は49.8%と、いずれの領域においても全国平均を上回っています。
- 設問別に見ると、1(1)「合同な正三角形で敷き詰められた模様の中に、条件に合う図形を見いだす」問題、2(1)「示された情報を解釈し、条件に合う時間を求める」問題において、全国と比べてそれぞれ10.0%、9.5%上回っている状況です。
- 設問3(1)「メモの情報とグラフを関連付け、総数や変化に着目していることを解釈し、それを記述する」問題では、全国の正答率を1.1ポイント上回っているが、正答率が21.8%と低い状況です。また、無回答率は25.5%と、全国平均よりも7.5%上回っている状況です。

- 複数の観点で示された情報とグラフを関連付けて解釈し、表現することに課題が見られました。今後も収集した情報を表やグラフに整理した後、複数の観点で考察して表現する活動を積極的に取り入れていきます。また、グラフを読み取る観点が異なると、結論が異なる場合もあることに気付くことができるように指導していきます。
- 答えを求めるまでに複数の段階がある問題の解決の際には、「なぜ、そのように考えたのか」を問うことで、複数の情報から数量を解釈し関連付けて、数量の関係を見だし、見通しをもつことができるように指導していきます。
- 「図形」領域においては、図形の構成要素や性質を基にして考えることが大切です。そのため、図形の構成・分解の活動を通して、図形の性質についての理解をさらに深めることができるようにしていきます。

- 複数の観点で示された情報とグラフを関連付けて解釈し、表現することに課題が見られました。今後も収集した情報を表やグラフに整理した後、複数の観点で考察して表現する活動を積極的に取り入れていきます。また、グラフを読み取る観点が異なると、結論が異なる場合もあることに気付くことができるように指導していきます。
- 答えを求めるまでに複数の段階がある問題の解決の際には、「なぜ、そのように考えたのか」を問うことで、複数の情報から数量を解釈し関連付けて、数量の関係を見だし、見通しをもつことができるように指導していきます。
- 「図形」領域においては、図形の構成要素や性質を基にして考えることが大切です。そのため、図形の構成・分解の活動を通して、図形の性質についての理解をさらに深めることができるようにしていきます。

- B区分「地球」では実験結果を基に分析して考察し、その内容を記述できるようにすることに課題が見られました。この課題を解決するために、結果を表などに整理し、事実(条件と結果)と、その解釈(結果から考えられること)の両方を整理して説明する授業展開を積極的に取り入れていきます。
- A区分「エネルギー」では自分の考えと異なる他者の予想を把握し、予想が確かめられた場合の実験結果の見通しをもって実験を構想することに課題が見られました。この課題を解決するために、実験結果の見通しを伴った解決の方向性を構想し、より妥当な考えへの改善へつながらる授業展開を積極的に取り入れていきます。
- B区分「生命」では野鳥を観察する際に、安全に留意していなかったり、野鳥の生態に影響を及ぼしたりするような解答が見られました。そこで、生物の観察方法を構想し、その後、その構想した方法について根拠を基にして議論するなど、話し合いを通して、観察方法が安全への配慮と生物への影響を考慮したものになっ